

■観光地経営の視点と実践 最新刊

観光地の持続的発展にとって、今や「観光地を経営する」という地域マネジメントの考え方が重要。本テキストは、既存観光地の現場で日々努力し、活躍されている方々が主な対象。「観光地経営」を一定の方針（ビジョン）に基づいて、観光地を構成するさまざまな経営資源、推進主体をマネジメントするための「連の組織的活動」と定義し、八つの視点と十の実践例について、その考え方や展開手法を解説。当財団調査研究専門機関化五〇周年記念事業の一環として発行。二〇一三年十二月発行（丸善出版）



■美しき日本 旅の風光 最新刊

調査研究専門機関として五〇周年を迎えたことを期に、当財団が長年取り組んできた「日本における観光資源の評価に関する研究」の成果を基に監修。北海道から沖縄までをエリアごとにまとめ、風景だけでなく、伝統文化、神社仏閣、温泉、街、食、祭り、芸能など、いつまでも残しておきたい日本の大切な資源として紹介。完全英語訳付きで海外の方にも広く日本の観光資源の魅力をお伝えできる二冊。二〇一四年五月発行（JTBパブリッシング）



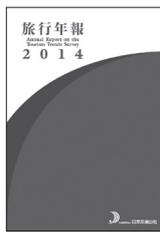
■平成25年度観光実践講座 講義録 最新刊

オバクに学ぶ、観光まちづくりの理論と実践！地域活性化の秘訣、課題解決のヒント！当財団が主催している二日間の講座講義録。今回は観光まちづくりの効果的・実践的な手法として大きな広がりを見せている「オン・オフ」に着目。オン・オフ仕掛け人の鶴田浩郎氏はじめ、各地で活躍する方々による事例紹介から実践的な考え方やノウハウに触れ、持続可能な観光地づくりのヒントを習得できる冊。二〇一四年六月発行。



■旅行年報2014 リニューアル創刊

「旅行者動向*」と二体化し、リニューアル創刊。内容を充実し、旅行者、観光産業、地域、観光政策、それぞれについて直近一年の動向を分析、出来事を総覧。訪日外国人の発地調査、都道府県別の政策アンケート調査など新たに独自調査も増やし、引き続き当財団の研究者が分析、執筆、編集。旅行・観光の現状を多面的に一望できる二冊。二〇一四年十月発行。
*当財団独自調査に基づく日本人の旅行者の意識と行動を分析したレポート。



※当財団出版物の「注」文はホームページからお願いします。
担当：公益財団法人日本交通公社 観光研究情報室
電話 03-562556073 <http://www.jtb.or.jp>

次号予告

●政府はいわゆる「地方創生」をめどに「まち・ひと・しごと創生本部」を設置。自律的かつ持続的な地域社会の実現には、地域（まち）の経済活性化による定住者（ひと）の所得（しごと）の維持・拡大が不可欠。移出産業としての「観光」にも強い期待が寄せられています。次号特集では、「観光消費が地域にもたらす経済波及効果」を取り上げ、当財団の調査研究の成果を紹介するとともに、昨今急速に存在感を増す訪日外国人消費にも焦点を当り、観光消費を活かした地域経済活性化の道筋を探ります。

当財団からのお知らせ

「2014年度催し物のご案内」

当財団主催の今年度の催し物実施・予定についてご案内します。本編「財団活動のいま」で第1回の様子を紹介させていただきました。今年度中の第2回開催に向けて準備中です。

●第2回 たびとじよCafe」開催予定

二〇一四年度内 二月あるいは三月の平日 17時30分より
会場：当財団 旅の図書館（東京八重洲・ダイビル地下一階）
コンテンツ：ツーリズムの分野である「アヌ聖地巡礼」をテーマに取り上げ、奈良県立大学地域創造学部講師岡本健氏をゲストスピーカーにお招きする予定です。詳細については、当財団ホームページ URL: <http://www.jtb.or.jp> でご案内します。

「研究員コラムの紹介」（二〇一四年九月〜十一月）

行く先々で見て触れて、そして地元の人たちと語り、感じたと。世相のなかに見た観光の未来像など、各研究員が独自の経験と視点を基にして、ホットな雑感を綴ります。当財団ホームページ「研究員コラム」に掲載した三ヶ月分をご紹介します。【研究員コラム一覽】で検索できます。

- 2222 知れば知るほど世界が広がった1年 (門脇菜海)
- 2223 観光政策に生かせる学術研究を目指して (川口明子)
- 2224 観光産業が持つ「裾野」とは (菅野正洋)
- 2225 「いい話」を売る (久保田美穂子)
- 2226 利用者モニタリングの重要性 (五木田玲子)
- 2227 まちづくりと観光事業の間にある壁② (後藤健太郎)
- 2228 インバウンド市場と歴史文化観光 (塩谷英生)
- 2229 もし、あの時、旅に出なかつたら (清水雄一)
- 2230 フォンが支える東北復興 (高崎恵子)
- 2231 観光プログラム (片桐)
- 2232 着地型旅行商品の有望な潜在顧客とは？ (外山昌樹)
- 2233 指標研究最前線 ～ヨーロッパの動向～ (中島泰)

編集後記

◆昨年十一月開催の行事から、リニューアルした「旅行年報2014」の概説を含めた「旅行動向シンポジウム」、旅の図書館の新たな取り組み「たびとじよCafe」、そして当財団と韓国文化観光研究院との研究発表会からの韓国カジノ産業の動向など、当財団の活動を多面的に紹介しました。

◆当財団は地域にある観光資源を調査し、価値を見いだした素晴らしい資源の活用による地域活性化策を地元の皆様と共に探ることを実践してきました。小誌でこれまで紹介した、特集、自主研究報告や観光研究最前線から、参考になる手掛かりを見つけて出されたことかと思えます。

◆特集「地域発観光プログラムの流通・販売―売れる」とは「はいかがでしたか。従来の発地側目線の旅行商品づくりと何が違うかを登壇者のコメントを通して考え、日本各地の事業者が主体となって企画・流通・販売していく実態と手法を探ることを試みました。地域を活性化するためには、さまざまな切り口があるでしょう。「着地型」を含めた「地域発」という言葉に託した意味合いをくみ取っていただき、地域発観光プログラムのあり方や地域で活躍するひと、ガイドの重要性などに関して考察する材料になるものと期待しています。

観光文化編集室メールアドレス：
kankouunka@jtb.or.jp